



「五穀舞」を披露する大迫町の大償神楽



やまのかみまい
大償神楽「山神舞」



鶴鳥神楽「恵比寿舞」



「舞い手」と「観客」が一体となる瞬間

「比寿舞」を、大償神楽は「鳥舞」、「五穀舞」、「権現舞」を舞い拍手喝さいを浴びていました。鶴鳥神楽を指導くださっている同保存会の三上岩富胴取（田野畑村）は「大償神楽も鶴鳥神楽も同じ山伏神楽です。舞いの違いを楽しんでください」とあいさつ。大償神楽代表の佐々木さんは「早池峰山のふもとから三時間かけて来ました。沿岸と内陸の山伏神楽の違いなど、幅広く神楽を見ていただきたい」と初の合同競演を前に抱負を述べました。

「山伏神楽伝統を舞う」と題したこの公演は、大迫町出身で現在、黒崎小学校の佐々木一夫校長が大償神楽の後援会役員を務めていることから実現しました。

神楽を通じた両町村の交流は今後も期待され、観光や特産品などの販売にもつながる合同公演だったといえます。